

科目名	民法D（親族・相続）						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照				
開講期	春学期	開講学部等	法学部	配当年次	2年次	単位数	2単位
教員名	竹治 ふみ香						

授業概要／Course outline

本講義では主に、夫婦や親子の関係などについて定めている民法の第4編「親族」と、法定相続や遺言などについて定めている民法の第5編「相続」の内容を扱う。例えば、不貞行為をした配偶者の方から離婚を請求することはできるのか、DNA鑑定によれば血縁関係がない者が法律上は父とされる場合がなぜ生じるのか、自分の死後息子に財産を残したくないという場合その希望は叶えられるのかなどといったことは、親族・相続編に関わる問題である。

この授業では、民法の親族・相続編の構造、そこで定められているルールを学び、これに関連する論点を取り上げて判例や学説を紹介するなかで、現代における家族にまつわる問題を法的な視点から考えることができるようになることを目指す。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

授業の振り返りと期末試験の講評のために、「90分相当のオンデマンド授業」を行う。

授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 本講義に取り組むための基礎知識

第2回 夫婦（1）婚姻の成立

第3回 夫婦（2）婚姻の効果

第4回 夫婦（3）離婚

第5回 親子（1）実子（嫡出子・非嫡出子）①

第6回 親子（2）実子（嫡出子・非嫡出子）②

第7回 親子（3）養子

第8回 親子（4）親権

第9回 後見・扶養

第10回 相続（1）相続の原則

第11回 相続（2）相続人・相続分

第12回 相続（3）遺産分割

第13回 相続（4）遺言

第14回 相続（5）遺留分

★オンデマンド 授業の振り返りと期末試験の講評（定期試験および追試験終了後、90分相当）

事前・事後学修／Preparation and assignments

第1回 「授業内容・授業計画」に記載したテーマについて、以下のように事前・事後学修をすること。

【事前学修】

・第1回については、これまで受講してきた民法関連科目で学んだ内容を思い出ししておくこと。

・第2回以降については、moodleを通じて配布される講義レジュメまたは教科書・参考文献の該当箇所を事前に一読すること。

【事後学修】

・moodleで授業内容を確認する小テストを受験すること。

・講義で学んだ内容を踏まえて講義レジュメを振り返り、教科書・参考文献の該当箇所を確認すること。

第2回 同上

第3回 同上

第4回 同上

第5回 同上

第6回 同上

第7回 同上

第8回 同上

第9回 同上

第10回 同上

第11回 同上

第12回 同上

第13回 同上

第14回 同上

※各授業に対する事前・事後学修は190～200分程度を目安とし、合計で2,700分程度とする。上記内容を確認して、しっかりと事前・事後学修を行うこと。

授業の到達目標／Expected outcome

1. 親族・相続法の基本的な構造や考え方を理解し、その知識を獲得する。
2. 家族法の重要な判例・学説を理解できるようになる。
3. 具体的な事例について、法的な視点から分析・説明できるようになる。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

・主体性

専門知識・専門技能

【法学部 法律学科】

・法律学・政治学の基礎知識

【法学部 法政策学科】

・法律学・政治学・政策学の基礎知識

履修上の注意／Special notes, cautions

授業を受けたあと、記憶の新しいうちにレジュメやメモを見返すことで、理解が深まり、記憶に残りやすくなる。また、各回の授業内容は関連していることから復習を積み重ねることで次回以降の授業も理解しやすくなり、体系的な学びにも繋がる。関心を持って真摯に取り組むことが大切である。

評価方法／Evaluation

小テストを含む平常点 30%

授業内の小テストおよび授業後の小テストを通じて、授業への取組姿勢、授業で学んだ親族・相続法の構造や考え方、判例・学説の理解度や知識の定着度を評価するとともに（到達目標1・2）、具体的な事例の分析や説明ができるかを評価する（到達目標3）。小テストの振り返りは、原則として次回授業内で行うこととする。

定期試験 70%

定期試験を通じて、授業で学んだ親族・相続法の構造や考え方、判例・学説の理解度や知識の定着度を評価するとともに（到達目標1・2）、具体的な事例の分析や説明ができるかを評価する（到達目標3）。

教 材／Text and materials

【教科書】

潮見佳男『民法（全）』（有斐閣、第3版、2022年）（他の民法科目と共通の教科書ですので、重複して購入しないよう注意してください。）

【参考文献】

上記教科書以降、親族・相続法分野では法改正があった。より新しい文献、様々な難易度の文献として、以下のものをあげておく。

床谷文雄・神谷遊・稲垣朋子・小川恵・幡野弘樹『新プリメール民法5 家族法』（法律文化社、第3版、2023年）

前田陽一・本山敦・浦野由紀子『LEGAL QUEST 民法VI 親族・相続』（有斐閣、第7版、2024年）

青竹美佳・渡邊泰彦・鹿野菜穂子・西希代子・冷水登紀代・宮本誠子著『新ハイブリッド民法5 家族法』（法律文化社、第2版、2024年）

質問や相談の方法／Instructor contact

授業に関する質問や相談などがある場合は、授業前後に質問するか、初回授業時に連絡するメールアドレスへ質問すること。